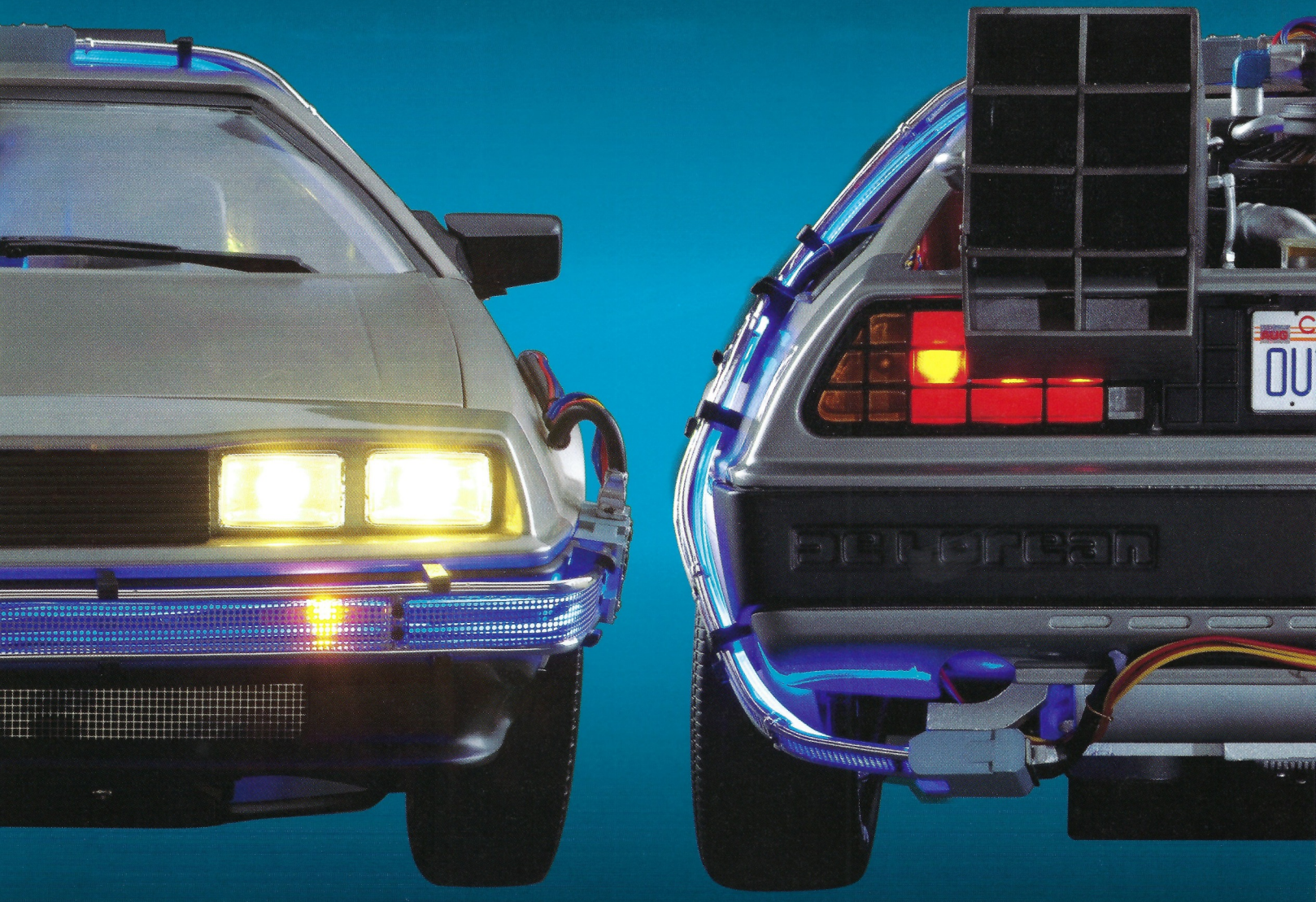
週刊 バック・トゥ・ザ・フューチャー デロリアン

BACK TO THE FUTURE DELOREAN



これより創刊号本編が始まります。

DeAGOSTINI

BACK TO THE FUTURE DELOREAN

SERIES GUIDE シリーズ ガイド

あのデロリアンが帰ってきた

『バック・トゥ・ザ・フューチャー』で一躍名を馳せ、
世界で最も有名となったタイムマシン、デロリアン。
斬新なメタルボディ、近未来的なガルウイングドア。
あのデロリアンが、8分の1ビッグスケールモデルで帰ってきた……

実在するクルマ——DMC-12

『バック・トゥ・ザ・フューチャー』に登場するタイムマシン、デロリアンは、実在する市販車を改造したものです。基となったのは「デロリアン」の通称で知られる「DMC-12」。デロリアン・モーター・カンパニーで唯一製造されたクルマで、1982年に同社が倒産したため製造台数は約8500台といわれています。その希少性、斬新なデザイン、映画の影響などから、今も熱狂的なファンが多くいます。



UNIVERSAL A COMCAST COMPANY

© 2017 Universal Studios and U-Drive Joint Venture. Back to the Future, Back to the Future Part II, and Back to the Future Part III are trademarks and copyright of Universal Studios and U-Drive Joint Venture. Licensed by Universal Studios Licensing LLC. All rights reserved.

本シリーズは全130号で完結します

光り輝く多数のライト

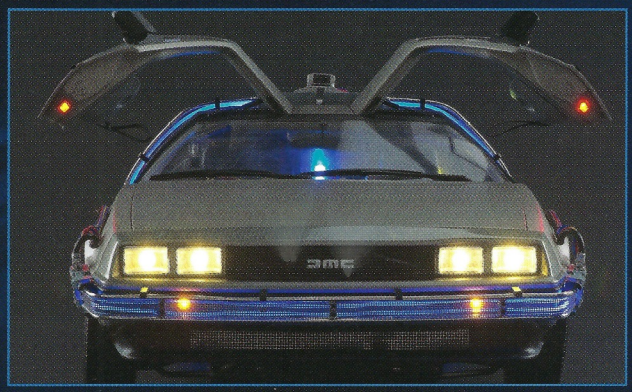
随所にライトを内蔵、タイムマシンを光で演出



特長の一つがライトの多さ。ペダルに連動したブレーキランプ、ドアの開閉に合わせて点灯するライト。内外に無数のライトを搭載。

鈍い光沢を放つボディ

主要部はダイキャスト合金製、ヘアライン加工も



ボディはダイキャスト合金製でヘアライン加工も再現。独特の鈍い光沢を放ちます。

マガジンで映画をより深く



マガジンではモデルの組み立て方を解説。また、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の撮影秘話や舞台裏など、映画をより深く知るための情報が満載。

大迫力の1/8スケール

BACK TO THE FUTURE DELOREAN

REAR

サイドウィンドウ



サイドウィンドウは、ドア下部にある小さなワインダーで上げ下げが可能。

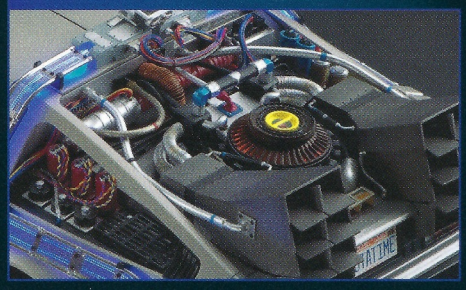
ダッシュボード



ダッシュボードには時速88マイルを測るデジタル表示のスピードメーターも。計器類は点灯式。

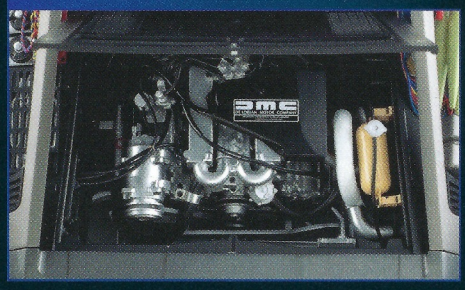
8分の1スケールの迫力を実物大で体感しよう

タイムトラベル機構



リアにはタイムトラベル用の装置を搭載。ホース類のテープに至るまで忠実に再現しています。

V6エンジン



タイムトラベルのための装置の下には、デロリアンのV6エンジンを詳細に再現。

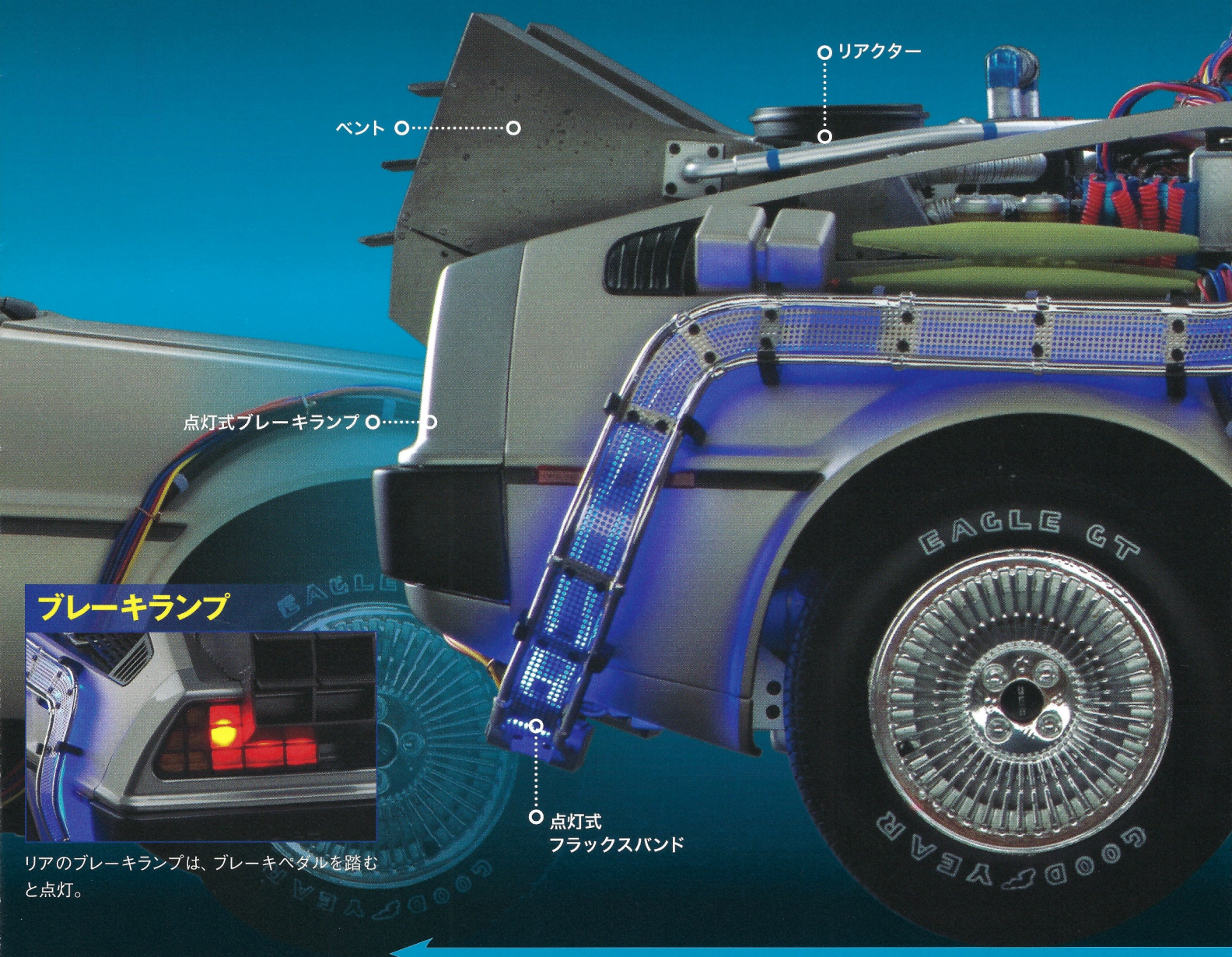
タイムサーキ



タイムサーキットは点灯
重要な日付がセットされ

こだわりのディテール、豊富な可動部

——映画に登場する機器も忠実に



ブレーキランプ

リアのブレーキランプは、ブレーキペダルを踏むと点灯。

ット



式。シリーズに登場する
ています。

フラックス・キャパシター

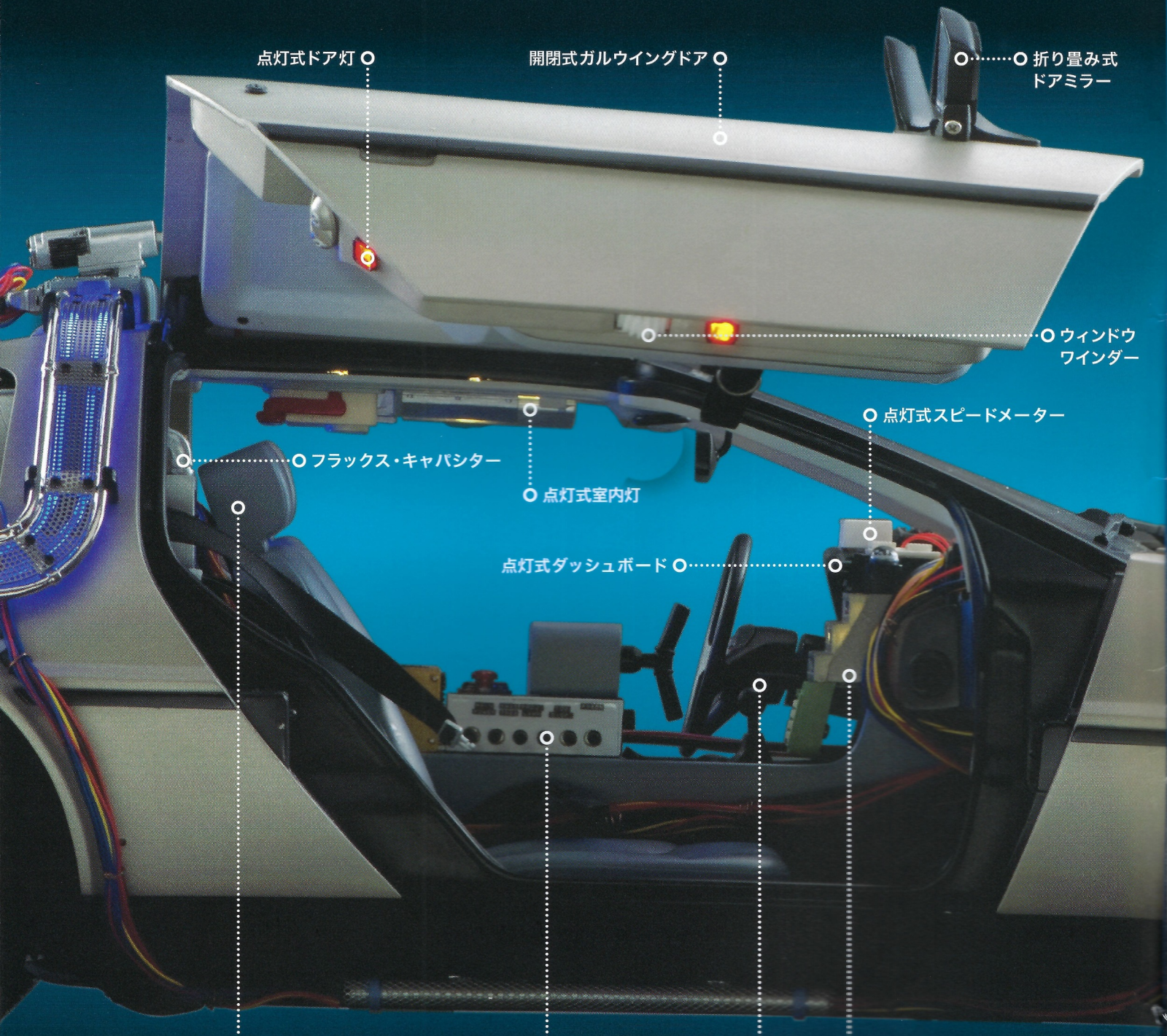


車内には点灯した状態のフラックス・キャパシターも。シートは可倒式。

スイッチボックス



コンソールの上にはスイッチボックス。ライト類を制御します。



SIDE

原寸大 52.7cm

FRONT

開閉式ボンネット

点灯式ヘッドライト

可動式タイヤ

※モデルの仕様、材質、色などは変更になる場合があります。ご了承ください。

スペック

全　　長	52.7cm
全　　幅	23.2cm
全　　高	14.3cm (ドアオープン時:24.5cm)
主な素材	ダイキャスト合金 (ボディとエンジン)、ABS樹脂 (タイヤ、シート、エンジン部品の一部、シャシー)

BACK TO THE FUTURE DELOREAN マガジンで映画の世界を

マガジンでは、制作・撮影秘話や舞台裏などを詳しく紹介。また、デロリアンが生み出されるまでの経緯も解説。映画とデロリアンをより詳しく知るための情報が満載です。

メイキング・ザ・ムービー

『バック・トゥ・ザ・フューチャー』はどのようにして生み出されたのか？　制作のきっかけとなった監督と脚本家の出会い、脚本の変遷、キャスティングの裏話などを紹介します。





『バック・トゥ・ザ・フューチャー』にまつわるコラムが満載。映画の知識を豊かにするトリビアばかりです。

監督や脚本家の述懐や証言も紹介。当事者の生の言葉から、映画制作の様子が肌で感じられます。

ビハインド・ザ・シーン

世界一有名なタイムマシン、デロリアンはどのようにして作られていったのか？　制作に関わったデザイナーやコンセプトアーティストの証言から、開発の経緯を詳しく紹介します。





デザイナーによるイラストや絵コンテなど。制作時に描かれた貴重なアートワークが満載です。

どのようにデザインされ、改良されていったのか。デロリアン誕生までの経緯を、順を追って紹介します。

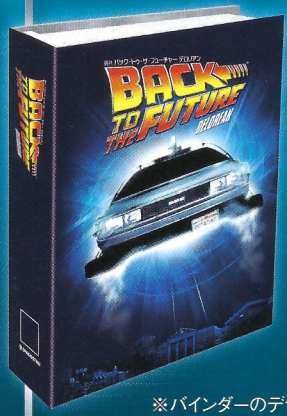
より深く

コラム・オブ・ザ・フューチャー

映画の主人公をはじめ、各役を演じた俳優・女優。また作中の重要なランドマークなどを毎号一つずつ取り上げます。

毎号、俳優や女優、ランドマークにまつわるトリビアも紹介します。





定期購読全員プレゼント！

1.本誌専用特製バインダー

※バインダーのデザインは変更になる場合があります。

2.デロリアン原寸大レプリカナンバープレート



詳しくは綴じ込みの定期購読申し込み用紙をご覧ください。

『バック・トゥ・ザ・フューチャー』

主人公、マーティ・マクフライ（マイケル・J・フォックス）とエメット・ブラウン博士（通称ドク、クリストファー・ロイド）がタイムマシン「デロリアン」で過去や未来に旅するSFコメディアクション映画。1985年の公開当時、アメリカではブームが生まれるほど大ヒットしました。続編のパートⅡは1989年、パートⅢが1990年に公開されています。監督はロバート・ゼメキス。脚本、ボブ・ゲイル。スティーヴン・スピルバーグも製作総指揮として関わっています。数ある魅力の一つが、作中のあちこちに張り巡らされた伏線やパロディなど。何度見ても飽きない、SFアドベンチャー映画の傑作です。

デロリアンでたどるダイジェスト

パートⅠ

【デロリアン登場――1955年にタイムトラベル】

タイムトラベルの実験後、過激派が襲撃。ドクは殺されてしまい、マーティは1955年に……。過去に行ったマーティは、未来に戻るためドクのもとに。両親の恋愛に巻き込まれるなど、トラブル続きのドタバタ劇の始まりです。

「リアクター」、「タイムサーキット」、「フラックス・キャパシター」など、タイムトラベルに必要な機器を搭載！

【無事に1985年に――“未来型”デロリアン登場】

時計台の落雷を利用してマーティは1985年にタイムトラベル。ラストシーンに現れたのは、2015年からやって来たデロリアンでした……。

ゴミなどを動力に変換する「ミスター・フュージョン」、飛行可能な「ホバー・コンバージョン」を搭載！



「ミスター・フュージョン」は、ゴミなどを分子レベルまで分解して動力に。

パートⅡ

【デロリアン2015年に】

“未来型”デロリアンで2015年に向かったマーティ。犯罪に関わろうとする息子を助けます。

【再び1985年へ――ビフが支配する世界】

息子を救い、1985年に戻ったマーティ。しかし、そこはビフ・タネンが支配する悪夢のような世界でした。

【世界を戻すべく1955年へ】

歴史が変わった原因は未来のスポーツ年鑑。ビフが過去の自分に渡したことがきっかけでした。1955年に戻ったマーティの年鑑を巡る戦いが始まります。

【デロリアン、落雷のショックで1885年に】

年鑑をビフから取り戻したマーティとドク。しかし、落雷を受けたショックでドクの乗ったデロリアンは1885年にタイムスリップ。行方不明に……。

タイムサーキットとホバー・コンバージョンが故障

パートⅢ

【デロリアン発見――1885年に】

1955年に留まるマーティにドクからの手紙が。鉱山に隠されたデロリアンを探し出し、1885年に向かいます。

タイムサーキットを修理。古くなったタイヤを交換

【デロリアン、最後のタイムトラベル】

パートⅢの主な舞台は開拓時代の1885年。タネンとの決闘、ドクの恋愛……。ドクを救ったマーティは、蒸気機関車で押されたデロリアンで1985年に戻ります。

ガソリンが漏れ出すなどして自走不能に。車輪を線路用に交換し、機関車で押すことに

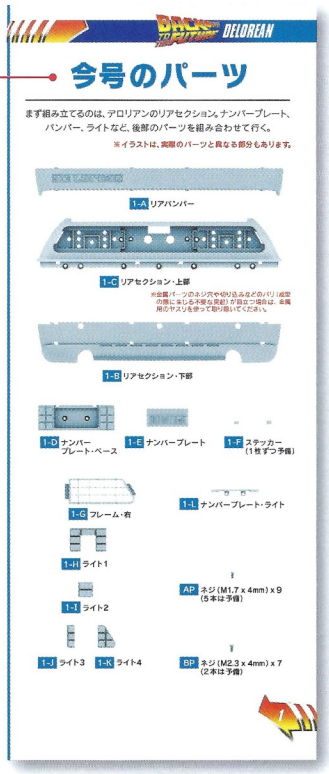
組み立ては簡単 図で分かりやすく解説

さあ、あのデロリアンを作ろう！

毎号付いてくるパーツの組み立て方を図で詳しく解説。
付属のパーツを確認したら、あのデロリアンを組み立て始めましょう。

間違えやすい部分や注意点は❗マーク。向きや組み合わせ方に注意してください。

毎号のパーツの一覧を紹介。不足がないか確認してから組み立てましょう。





各号のパーツにまつわるコラムも掲載。ナンバープレートの文字に込められた意味は？



“未来型”デロリアンのように仕上げることも

パートIのラストシーンでは未来からやって来たデロリアンが登場。ゴミなどを動力に変換する「ミスター・フュージョン」を加えたりすることで、“未来型”デロリアンのように仕上げることも可能です。



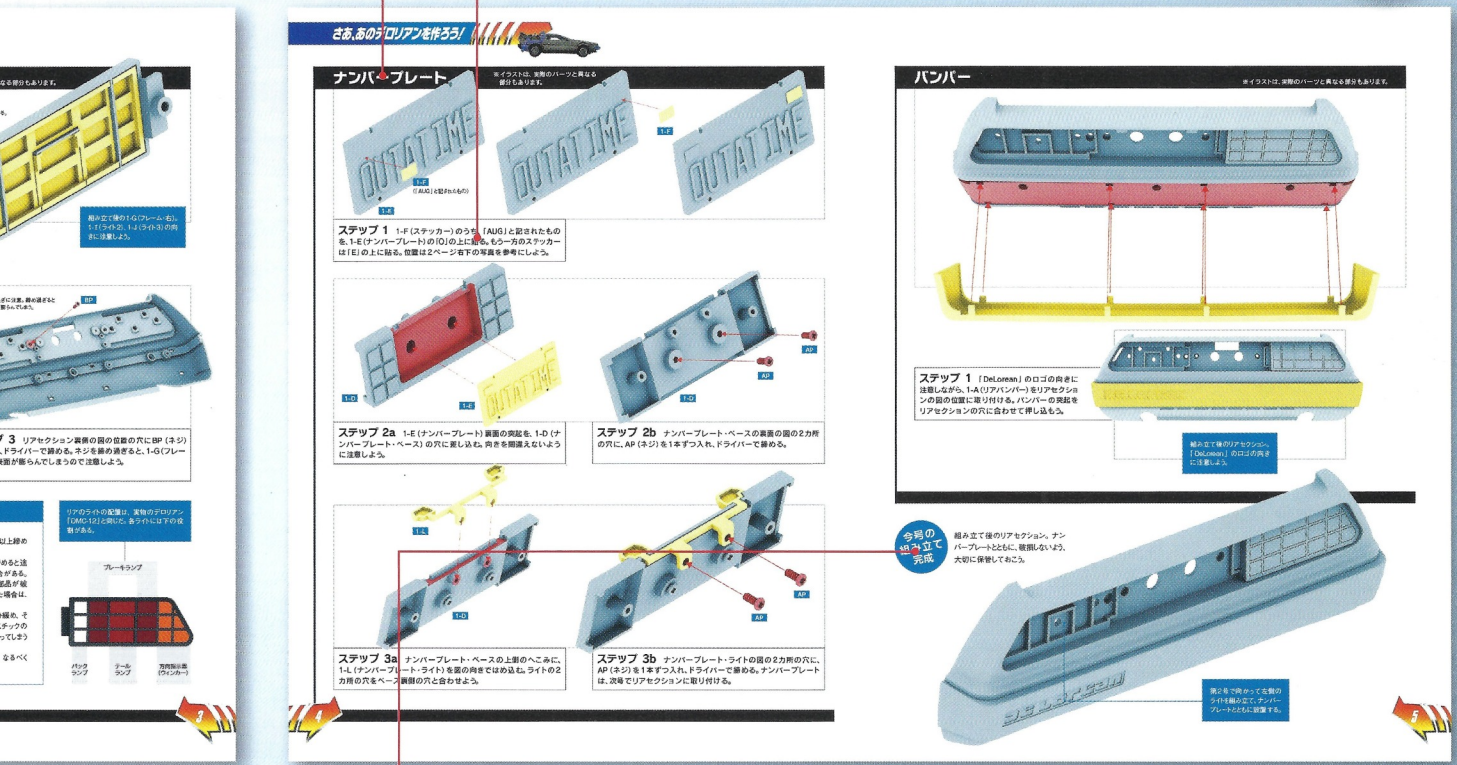


8分の1デロリアンの素材は、主要部がダイキャスト合金製で、ほかにプラスチックパーツなどを使用。付属のドライバーで簡単に組み立てられます。毎号のパーツの組み立て方は、図で分かりやすく説明します。



作り方は部位ごとに紹介。手順を追って組み立てていきましょう。

パーツの組み合わせ方は、順を追って丁寧に説明していきます。



組み立て後の図を紹介。正しく組み立てられているか、もう一度確認しましょう。

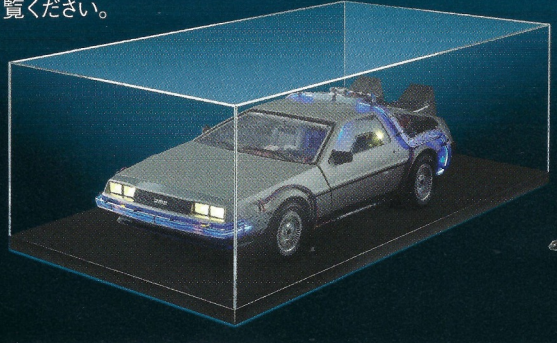
組み立ては付属のドライバーでOK!

パーツは、はめ込んで固定するか、ネジを使って固定します。ネジ締めは、付属のドライバーでOK!
補強用の瞬間接着剤など、組み立てに便利な道具も随時紹介します。



専用のディスプレイ台を販売予定

完成したデロリアンを美しくディスプレイするための専用ディスプレイケースを販売予定です。詳細は、シリーズ後半にご案内する本誌同梱のデアゴスティーニ・セレクト通販チラシかホームページ (http://deagostini.jp/select/) をご覧ください。



※デザイン、仕様は変更になる場合があります。

近刊予告

毎週火曜日発売　価格：本体1,657円＋税

※地域によって発売日が異なる場合があります。
※内容と表紙は変更になる場合があります。
ご了承ください。



第2号　2月14日（火）発売

さあ、あのデロリアンを作ろう！
ボディパネル（左前）を組み立てる

メイキング・ザ・ムービー
映画とは異なるエンディング
―初期の脚本―

ビハインド・ザ・シーン
タイムトラベル・コンサルタント
―ロン・コブの貢献―

コラム・オブ・ザ・フューチャー
ヒル・バレー裁判所の時計台
―1955年11月12日―

パーツ



ボディパネル（左前）





ライト（左側）



第3号　2月21日（火）発売

さあ、あのデロリアンを作ろう！
タイヤを組み立てる

メイキング・ザ・ムービー
マーティとドク・ブラウンのキャラクター
―初期の脚本での設定―
スピルバーグの影響
マーティ役を探せ

ビハインド・ザ・シーン
デザインの完成―プロバートによる仕上げ―

コラム・オブ・ザ・フューチャー
エメット・ブラウン―クリストファー・ロイド―

パーツ





タイヤ



第4号　2月28日（火）発売

さあ、あのデロリアンを作ろう！
リアクター、ミスター・フュージョンを組み立てる

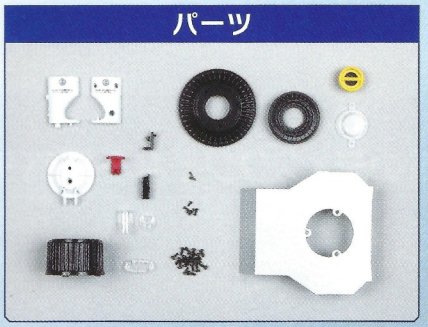
メイキング・ザ・ムービー
ドク役を探せ

ビハインド・ザ・シーン
映画の外のドク・ブラウン
―デロリアンの制作―

コラム・オブ・ザ・フューチャー
アインシュタイン
―“タイガー”―

第4号では
デロリアン分解マップをプレゼント！

パーツ



ミスター・フュージョン



リアクター